

行政評価(施策評価シート)

1 基本項目

基本目標4	ひとと環境にやさしい安全で快適なまち
基本施策2	自然と調和した安全で快適な都市の形成
施策29	道路
基本方針	だれもが安全で快適に利用できるよう道路機能の充実や適正な維持管理を図ります。

2 指標(長期総合計画目標指標)

指標名		現状		H24実績	H25実績	H26実績	H27実績	H28実績	目標値 (平成28年度)
指標1	重点整備地区内のバリアフリー整備延長	6.2 km	(平成22年度末)	6.2 km	6.2 km	6.2 km			8.8 km

3 施策を構成する事務事業の実施・評価結果

No	事業名	平成26年度実施結果			評価(所管課長)				指標に係る重点事務事業
		決算/円	執行率	進捗状況	妥当性	効率性	有効性	方向性	
1	セットバックの促進と隅切り整備	12,054,275	87.9%	計画どおり完了	○	○	○	A	
2	羽村駅・小作駅周辺等のバリアフリー化	-	-	計画を見直し完了	△	△	△	B	*
3	道路維持保全計画の推進	37,584,000	90.4%	計画どおり完了	○	○	○	A	
4	橋梁の耐震化	7,560,000	100.0%	計画どおり完了	○	○	○	A	*
5	羽村駅自由通路の拡幅等整備	9,572,937	92.8%	計画どおり完了	○	○	○	A	
6	奥多摩街道間坂交差点整備に伴う周辺道路(市道第203号線)の整備	-	-	計画を見直し完了	○	○	○	A	

4 施策評価

① 施策の評価

奥多摩街道間坂交差点整備は交通環境の改善や交通の利便性の向上が図れるため、早急に整備する必要がある。また、セットバック、隅切りなどの狭い道路についても事業を実施し、日常生活での通行や車両通行などだれもが安全に利用できる道路環境の整備が図れた。

バリアフリー化など快適な道路環境の整備については、市民等からの駅周辺におけるバリアフリー化要望等について検討を重ねているが、指標1のとおりバリアフリーの整備は進捗していないので、駅前などバリアフリー化する優先順位を決めて事業を進めていく必要がある。

道路等の維持管理については、老朽化が進む中、道路については、舗装構造評価(FWD)調査及び道路ストック総点検結果等を踏まえ、補修工事の優先順位を見直すこととした。

② 今後の方向性(改善への取組み等)

奥多摩街道間坂交差点整備は用地取得等、事業を確実に進めていき、早急に整備していく。また、セットバック、隅切りなどの狭い道路についても引き続き事業を実施し、道路機能の充実を図っていく。

バリアフリーの整備については、平成26年度に実施した道路ストックの総点検等を基にしてバリアフリー化の計画策定に着手し、歩道等のバリアフリー化事業を進めていく。

道路・橋梁の維持管理についても、点検結果等から得られるデータをもとに、適切に補修をしていく。

平成26年度【基本シート】

1.基本項目		作成部署	建設部			土木課
事業名		開始年度	実施期間	事業種別	運営手法	進行管理
1	セットバックの促進と隅切り整備	不明 年	継続	自治事務(市独自)	業務委託(全部)	
01	セットバック部分等の舗装	不明 年	継続	自治事務(市独自)	業務委託(全部)	
02	市道第7085号線道路新設工事	平成 26 年	今年度限り	自治事務	業務委託(全部)	
03		年				
04		年				
05		年				
関連課						
基本目標 4	ひとと環境にやさしい安全で快適なまち	施策区分	29	道路	事業番号	2

2.事業の概要

事業内容	狭あいな道路のセットバックを促進するとともに、通行に支障のある交差点について隅切りの整備を進めます。
根拠法令	
条例	
要綱等	

3.成果指標

成果目標	建築基準法に基づくセットバック等について、積極的に市民に周知し、狭あい道路の減少につなげていく。
------	--

4.活動指標

Plan【計画】	平成25年度(現況)	3か年計画		
		平成26年度	平成27年度	平成28年度
事業内容 事業量等	セットバック部分等の舗装 面積 470㎡ 延長 470m	セットバック部分等の舗装 面積 280㎡ 延長 240m 市道7085号線道路新設工事 L=50m、W=5.0m]	セットバック部分等の舗装 面積 280㎡ 延長 240m	セットバック部分等の舗装 面積 280㎡ 延長 240m

5.投入指標(成果の達成、及び活動するために投入する資源【ヒト・モノ・カネ】)

①人件費【事務執行に要する人数と1人当たりの年間業務時間】

職層・職種別	平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度	
	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間
係長職	0人	0H	0人	0H	0人	0H	0人	0H
主事・主任職	1人	240H	2人	520H	1人	160H	1人	160H

②総事業費

事業費の内訳(単位:千円)	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
事業費	4,860	13,711	3,000	3,000
人件費(係長職)	0	0	0	0
人件費(主任・主事職)	883	3,773	581	581
総事業費(合計)	5,743	17,484	3,581	3,581
国庫支出金	0	0	0	0
都支出金	0	0	0	0
受益者負担額	0	0	0	0
その他特定財源	0	0	0	0
一般会計繰入金	0	0	0	0
起債	0	0	0	0
一般財源(人件費含む)	5,743	17,484	3,581	3,581
財源内訳(合計)	5,743	17,484	3,581	3,581

③コスト計算

ア 市民 56,732 人における1人あたりのコストは、 308 円
 イ 対象者 人における1人あたりのコストは、 円
 ウ 成果物 の 出来高 のコストは 円

※対象者

Do【実行】 【進行管理】

6.実施結果(活動指標と投入指標の結果)

計画どおり完了 計画を見直し完了(次年度以降計画を見直す) 遅延 中断

①活動実績(Plan【計画】)及び事中評価における改善について本年度どのような活動を実施したか

※計画を見直し完了、遅延、中断となった場合は、理由、内容などを記入すること。

狭あい道路等整備方針に基づき、セットバック部の舗装を240㎡、延長237m実施した。
羽村堰下橋の下流左岸に位置する堤防下の、市道第7085号線について、堤防上を利用していた部分を新たに堤防下に道路を新設し、歩行者と自動車等を分離し通行の安全対策を図った。

②投入実績

決算の内訳(単位:円)	予算額(当初)	補正・流用額	予算額(最終)	決算額	執行率
事業費	13,711,000		13,711,000	12,054,275	87.9%

7.成果結果

①活動、投入実績から生じた成果(物)

前年度(今までの状況)	今年度(どういう状態になったか)
市民に対し広報及び市公式サイトにおいて、建築基準法に基づくセットバック等について周知を図り、狭あい道路の整備に努めた。	市民に対し広報及び市公式サイトにおいて、建築基準法に基づくセットバック等について周知するとともに、セットバック部等の舗装を行い、狭あい道路の整備を図った。

②成果指標(目標値)を数値化している場合

対象者(物)	本年度:目標値	本年度:実績値

Check【評価】

8.評価

◎…適切であるが、今後、より効果的に改善するもの

○…適切なもの

①事業評価(改善等、課題を発見する視点) △…課題があり、今後、改善が必要なもの

項目	評価のポイント	項目の着眼点	課長評価
妥当性(必要性)	・上位施策(基本目標・施策)を達成する為に必要な事業か ・今の社会情勢に見合う事業内容となっているか ・利用者・対象者のニーズ(需要)はあるか	施策体系に結びつくか、事業の必要性はあるか	○
効率性(手法)	・活動手法を見直し、人件費・事業費の削減余地はないか	成果を落とさず、最少の経費・労力で事務が執行されているか	○
有効性(成果)	・事業の目標が達成されているか	成果又は効果が表れているか	○

②事業評価(今後の方向性についての視点)

【今後の方向性】	高 [妥当性・有効性]	今後の方向性						
<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;">B:事業の進め方の改善の検討</td> <td style="width: 50%;">A:計画どおりに事業を進めること、又は、より効果的に改善して進めることが適当</td> </tr> <tr> <td colspan="2">C:事業規模・内容又は実施主体の見直しの検討</td> </tr> <tr> <td colspan="2">D:事業の抜本的見直し、休止・廃止の検討</td> </tr> </table>	B:事業の進め方の改善の検討	A:計画どおりに事業を進めること、又は、より効果的に改善して進めることが適当	C:事業規模・内容又は実施主体の見直しの検討		D:事業の抜本的見直し、休止・廃止の検討		高 [効率性]	A
B:事業の進め方の改善の検討	A:計画どおりに事業を進めること、又は、より効果的に改善して進めることが適当							
C:事業規模・内容又は実施主体の見直しの検討								
D:事業の抜本的見直し、休止・廃止の検討								
	低							

③事務事業から導かれる今後の方向性と課題

評価(所管課長)
市民生活の利便性、安全性向上を図るため、引き続き狭あい道路のセットバック舗装の整備を行っていく。 市道第7085号線については、堤防上を利用していた部分を、堤防下に道路を新設し、自転車歩行者道と車道を分離することで、交通安全の向上が図れた。

平成26年度【基本シート】

1.基本項目		作成部署	建設部			土木課
事業名		開始年度	実施期間	事業種別	運営手法	進行管理
2	羽村駅・小作駅周辺等のバリアフリー化	平成 14 年	その他	自治事務	業務委託(一部)	
01	羽村駅・小作駅周辺に関する調査・検討	平成 14 年	その他	自治事務	直営	
02		年				
03		年				
04		年				
05		年				
関連課						
基本目標 4	ひとと環境にやさしい安全で快適なまち	施策区分	29	道路	事業番号	3

2.事業の概要

事業内容	羽村駅・小作駅周辺等の歩道の段差解消や歩道の整備を図ります。
根拠法令	
条例	
要綱等	

3.成果指標

成果目標	バリアフリーの整備を促進することにより、誰もが利用しやすい歩道の改修に努めます。
------	--

4.活動指標

Plan【計画】	平成25年度(現況)	3か年計画		
		平成26年度	平成27年度	平成28年度
事業内容 事業量等	羽村駅・小作駅周辺に関する調査・検討	羽村駅・小作駅周辺に関する調査・検討 交通バリアフリー道路特定事業計画の改訂	小作駅東口バリアフリー事業 設計委託 延長 200m	小作駅東口バリアフリー事業 工事 延長 200m 小作駅西口バリアフリー事業 設計委託 延長 315m

5.投入指標(成果の達成、及び活動するために投入する資源【ヒト・モノ・カネ】)

①人件費【事務執行に要する人数と1人当たりの年間業務時間】

職層・職種別	平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度	
	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間
係長職	1人	16H	1人	16H	1人	16H	1人	16H
主事・主任職	0人	0H	0人	0H	0人	0H	0人	0H

②総事業費

事業費の内訳(単位:千円)	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
事業費	0	0	2,800	11,200
人件費(係長職)	82	81	81	81
人件費(主任・主事職)	0	0	0	0
総事業費(合計)	82	81	2,881	11,281
国庫支出金	0	0	0	3,400
都支出金	0	0	0	0
受益者負担額	0	0	0	0
その他特定財源	0	0	0	0
一般会計繰入金	0	0	0	0
起債	0	0	0	0
一般財源(人件費含む)	82	81	2,881	7,881
財源内訳(合計)	82	81	2,881	11,281

③コスト計算

ア 市民	56,732	人における1人あたりのコストは、	<input type="text" value="1"/>	円
イ 対象者		人における1人あたりのコストは、	<input type="text"/>	円
ウ 成果物		の 出来高 <input type="text"/>		円

※対象者

Do【実行】 【進行管理】

6.実施結果(活動指標と投入指標の結果)

計画どおり完了 計画を見直し完了(次年度以降計画を見直す) 遅延 中断

①活動実績(Plan【計画】)及び事中評価における改善について本年度どのような活動を実施したか

※計画を見直し完了、遅延、中断となった場合は、理由、内容などを記入すること。

市民等からの駅周辺におけるバリアフリー要望等について検討を重ねた。

②投入実績

決算の内訳(単位:円)	予算額(当初)	補正・流用額	予算額(最終)	決算額	執行率
事業費	0		0		-

7.成果結果

①活動、投入実績から生じた成果(物)

前年度(今までの状況)	今年度(どういう状態になったか)
市民等からの駅周辺におけるバリアフリー要望等について検討を行った。	市民等からの駅周辺におけるバリアフリー要望等について検討を重ねた。 引き続き調査・検討を行っていくこととした。

②成果指標(目標値)を数値化している場合

対象者(物)	本年度:目標値	本年度:実績値

⇒

Check【評価】

8.評価

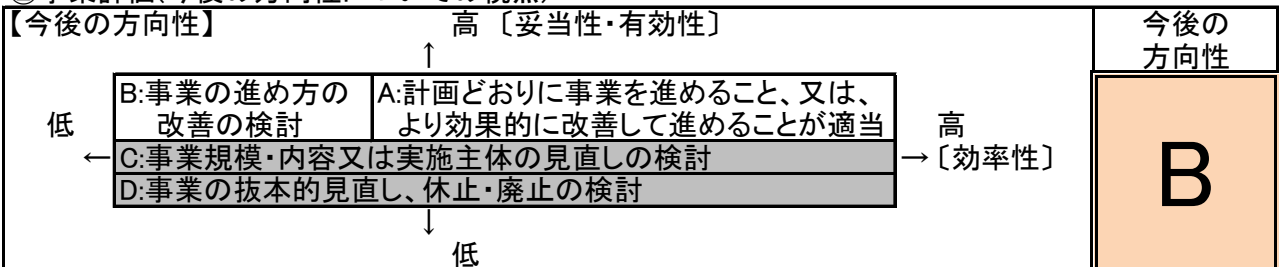
◎…適切であるが、今後、より効果的に改善するもの

○…適切なもの

①事業評価(改善等、課題を発見する視点) △…課題があり、今後、改善が必要なもの

項目	評価のポイント	項目の着眼点	課長評価
妥当性(必要性)	・上位施策(基本目標・施策)を達成する為に必要な事業か ・今の社会情勢に見合う事業内容となっているか ・利用者・対象者のニーズ(需要)はあるか	施策体系に結びつくか、事業の必要性はあるか	△
効率性(手法)	・活動手法を見直し、人件費・事業費の削減余地はないか	成果を落とさず、最少の経費・労力で事務が執行されているか	△
有効性(成果)	・事業の目標が達成されているか	成果又は効果が表れているか	△

②事業評価(今後の方向性についての視点)



③事務事業から導かれる今後の方向性と課題

評価(所管課長)
小作駅・羽村駅周辺等のバリアフリー化については、平成26年度に実施した道路ストックの総点検に則して、平成27年度に、現行の道路維持保全計画の優先順位等の見直しを図り、歩道等のバリアフリー化事業を進める。

平成26年度【基本シート】

1.基本項目		作成部署	建設部			土木課
事業名		開始年度	実施期間	事業種別	運営手法	進行管理
3	道路維持保全計画の推進	平成 25 年	期間設定10年	自治事務(市独自)	業務委託(全部)	
01	市道補修等工事	平成 25 年	期間設定10年	自治事務	業務委託(全部)	
02	舗装構造評価(FWD)調査	平成 26 年	その他	自治事務(市独自)	業務委託(全部)	
03	道路ストックの総点検	平成 26 年	その他	自治事務(市独自)	業務委託(全部)	
関連課						
基本目標 4	ひとと環境にやさしい安全で快適なまち	施策区分	29	道路	事業番号	4

2.事業の概要

事業内容	道路維持保全計画に基づき、安全で快適な道路環境を保つため、効率的な手法により、維持補修を実施します。					
根拠法令						
条例						
要綱等						

3.成果指標

成果目標	「予防保全」的な維持管理を実施し、道路施設の延命化やライフサイクルコストの縮減を図ります。
------	---

4.活動指標

Plan【計画】	平成25年度(現況)	3か年計画		
		平成26年度	平成27年度	平成28年度
事業内容 事業量等	市道補修等工事 市道第101、103、203、4005、5059号線 L=571.3m 市道第5173号線(羽西二丁目)法面補強事業 延長 50m	市道補修等工事 市道第202、2101、2102、7023号線 L=650m 舗装構造評価(FWD)調査 道路ストックの総点検 (路面性状調査)L=16km (道路標識施設点検)11箇所 (歩道橋施設点検)2箇所 (法面・擁壁等の構造物点検)L=1.6km	市道補修等工事 (道路維持保全計画の見直しに基づく整備の実施) 舗装構造評価 (FWD)調査 道路ストックの総点検結果 に基づき、道路維持保全計画の見直し	市道補修等工事 (道路維持保全計画の見直しに基づく整備の実施) 舗装構造評価 (FWD)調査 道路ストックの総点検結果 に基づき、修繕・補修工事の実施

5.投入指標(成果の達成、及び活動するために投入する資源【ヒト・モノ・カネ】)

①人件費【事務執行に要する人数と1人当たりの年間業務時間】

職層・職種別	平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度	
	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間
係長職	0人	0H	0人	0H	1人	80H	0人	0H
主事・主任職	3人	640H	3人	640H	3人	480H	3人	480H

②総事業費

事業費の内訳(単位:千円)	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
事業費	56,648	39,732	51,200	51,200
人件費(係長職)	0	0	401	0
人件費(主任・主事職)	7,064	6,964	5,223	5,223
総事業費(合計)	63,712	46,696	56,824	56,423
国庫支出金	0	1,980	0	0
都支出金	2,400	4,482	6,750	6,750
受益者負担額	0	0	0	0
その他特定財源	0	0	0	0
一般会計繰入金	0	0	0	0
起債	0	0	0	0
一般財源(人件費含む)	61,312	40,234	50,074	49,673
財源内訳(合計)	63,712	46,696	56,824	56,423

③コスト計算

ア 市民	56,732	人における1人あたりのコストは、	823	円
イ 対象者		人における1人あたりのコストは、		円
ウ 成果物		の出来高		円
※対象者				円

Do【実行】 【進行管理】

6.実施結果(活動指標と投入指標の結果)

計画どおり完了 計画を見直し完了(次年度以降計画を見直す) 遅延 中断

①活動実績(Plan【計画】)及び事中評価における改善について本年度どのような活動を実施したか

※計画を見直し完了、遅延、中断となった場合は、理由、内容などを記入すること。

安心で快適な道路環境を保つため、4路線、延長626.1mについて、舗装補修等の工事を行った。
舗装構造評価(FWD)調査及び道路ストック総点検を実施し、その結果に基づき道路維持保全計画の見直しを図ることとした。

②投入実績

決算の内訳(単位:円)	予算額(当初)	補正・流用額	予算額(最終)	決算額	執行率
事業費	39,732,000	1,857,000	41,589,000	37,584,000	90.4%

7.成果結果

①活動、投入実績から生じた成果(物)

前年度(今までの状況)	今年度(どういう状態になったか)
計画に基づき舗装補修等工事を実施し、道路の維持保全に努めた。	舗装構造評価(FWD)調査及び道路ストック総点検結果等を踏まえ、補修工事の優先順位を見直すとともに、舗装打ち替えの厚さ及び範囲等の工法を決定することとした。

②成果指標(目標値)を数値化している場合

対象者(物)	本年度:目標値	本年度:実績値

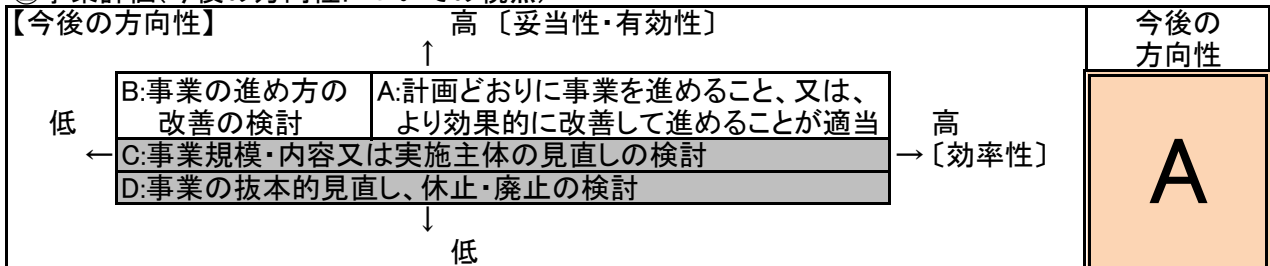
Check【評価】

8.評価

①事業評価(改善等、課題を発見する視点) ◎…適切であるが、今後、より効果的に改善するもの
○…適切なもの
△…課題があり、今後、改善が必要なもの

項目	評価のポイント	項目の着眼点	課長評価
妥当性(必要性)	・上位施策(基本目標・施策)を達成する為に必要な事業か ・今の社会情勢に見合う事業内容となっているか ・利用者・対象者のニーズ(需要)はあるか	施策体系に結びつくか、事業の必要性はあるか	○
効率性(手法)	・活動手法を見直し、人件費・事業費の削減余地はないか	成果を落とさず、最少の経費・労力で事務が執行されているか	○
有効性(成果)	・事業の目標が達成されているか	成果又は効果が表れているか	○

②事業評価(今後の方向性についての視点)



③事務事業から導かれる今後の方向性と課題

評価(所管課長)
市道の老朽化が進む中、効率的・計画的に舗装補修工事を実施することにより、安全で快適な道路環境を適正に維持管理するために必要である。

平成26年度【基本シート】

1.基本項目		作成部署	建設部			土木課
事業名		開始年度	実施期間	事業種別	運営手法	進行管理
4	橋梁の耐震化	平成 25 年	その他	自治事務(市独自)	業務委託(全部)	
01	耐震補強等工事实施設計	平成 26 年	今年度限り	自治事務(市独自)	業務委託(全部)	
02		年				
03		年				
04		年				
05		年				
関連課						
基本目標 4	ひとと環境にやさしい安全で快適なまち	施策区分	29	道路	事業番号	5

2.事業の概要

事業内容	震災時の避難路・運搬路となる橋梁の安全・安心を確保するために、耐震化を図ります。
根拠法令	
条例	
要綱等	

3.成果指標

成果目標	橋梁の長寿命化が図れるとともに、安全性・信頼性を確保することができる。
------	-------------------------------------

4.活動指標

Plan【計画】	平成25年度(現況)	3か年計画		
		平成26年度	平成27年度	平成28年度
事業内容 事業量等	羽村堰下橋、羽村橋、堂橋の長寿命化計画策定	耐震補強等工事实施設計(羽村堰下橋、羽村橋、堂橋)	耐震補強等工事(羽村堰下橋)	耐震補強等工事(羽村橋・堂橋)

5.投入指標(成果の達成、及び活動するために投入する資源【ヒト・モノ・カネ】)

①人件費【事務執行に要する人数と1人当たりの年間業務時間】

職層・職種別	平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度	
	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間
係長職	1人	240H	0人	0H	0人	0H	0人	0H
主事・主任職	0人	0H	1人	120H	1人	560H	1人	480H

②総事業費

事業費の内訳(単位:千円)	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
事業費	1,628	9,396	141,440	28,920
人件費(係長職)	1,223	0	0	0
人件費(主任・主事職)	0	436	2,032	1,741
総事業費(合計)	2,851	9,832	143,472	30,661
国庫支出金	880	3,575	62,200	12,700
都支出金	0	0	0	0
受益者負担額	0	0	0	0
その他特定財源	0	0	0	0
一般会計繰入金	0	0	0	0
起債	0	0	0	0
一般財源(人件費含む)	1,971	6,257	81,272	17,961
財源内訳(合計)	2,851	9,832	143,472	30,661

③コスト計算

ア 市民	56,732	人における1人あたりのコストは、	173	円
イ 対象者		人における1人あたりのコストは、		円
ウ 成果物		の 出来高		円

※対象者

Do【実行】 【進行管理】

6.実施結果(活動指標と投入指標の結果)

計画どおり完了 計画を見直し完了(次年度以降計画を見直す) 遅延 中断

①活動実績(Plan【計画】)及び事中評価における改善について本年度どのような活動を実施したか

※計画を見直し完了、遅延、中断となった場合は、理由、内容などを記入すること。

羽村市橋梁長寿命化修繕計画に基づき、羽村堰下橋、羽村橋、堂橋の長寿命化に向けた、耐震補強等工事の実施設計を行った。

②投入実績

決算の内訳(単位:円)	予算額(当初)	補正・流用額	予算額(最終)	決算額	執行率
事業費	9,396,000	▲ 1,836,000	7,560,000	7,560,000	100.0%

7.成果結果

①活動、投入実績から生じた成果(物)

前年度(今までの状況)	今年度(どういう状態になったか)
橋梁の長寿命化並びに修繕に係る費用の削減を図るとともに、橋梁の安全性・信頼性を確保することを目的として、羽村市橋梁長寿命化修繕計画を策定した。	計画に基づき、橋梁の長寿命化及び安全性・信頼性を確保するため、3橋の耐震補強等工事の実施設計を行った。

②成果指標(目標値)を数値化している場合

対象者(物)	本年度:目標値	本年度:実績値

Check【評価】

8.評価

◎…適切であるが、今後、より効果的に改善するもの

○…適切なもの

①事業評価(改善等、課題を発見する視点) △…課題があり、今後、改善が必要なもの

項目	評価のポイント	項目の着眼点	課長評価
妥当性(必要性)	・上位施策(基本目標・施策)を達成する為に必要な事業か ・今の社会情勢に見合う事業内容となっているか ・利用者・対象者のニーズ(需要)はあるか	施策体系に結びつくか、事業の必要性はあるか	○
効率性(手法)	・活動手法を見直し、人件費・事業費の削減余地はないか	成果を落とさず、最少の経費・労力で事務が執行されているか	○
有効性(成果)	・事業の目標が達成されているか	成果又は効果が表れているか	○

②事業評価(今後の方向性についての視点)

【今後の方向性】		今後の方向性
高 [妥当性・有効性]		A
↑	高	
低	←	
↓	→ [効率性]	
低	高	低

B:事業の進め方の改善の検討 A:計画どおりに事業を進めること、又は、より効果的に改善して進めることが適当

C:事業規模・内容又は実施主体の見直しの検討 D:事業の抜本的見直し、休止・廃止の検討

③事務事業から導かれる今後の方向性と課題

評価(所管課長)
平成25年度に実施した調査結果に基づき、災害時の避難路・運搬路となる橋梁の安全・安心を確保する必要があることから、橋梁の耐震補強等工事を早急に進めるべき事業である。

平成26年度【基本シート】

1.基本項目		作成部署	建設部			建築課
事業名		開始年度	実施期間	事業種別	運営手法	進行管理
5	羽村駅自由通路の拡幅等整備	平成 17 年	その他	自治事務	直営	○
	01	年				
	02	年				
	03	年				
	04	年				
	05	年				
関連課	田木課・企画政策課					
基本目標	4	ひとと環境にやさしい安全で快適なまち	施策区分	29	道路	事業番号 6

2.事業の概要

事業内容	羽村駅自由通路の拡幅等について東日本旅客鉄道(株)と協議を進め、自由通路を道路施設として拡幅することで、駅利用者並びに東西地区間の通路利用者の利便性や安全性の向上を図ります。					
根拠法令						
条例						
要綱等	青梅線羽村駅自由通路拡幅等整備事業に関する基本協定					

3.成果指標

成果目標	自由通路の拡幅により、駅利用者や東西地区への通行利用者の利便性や安全性の向上を図るとともに、駅周辺の商業等の活性化を図る。					
------	---	--	--	--	--	--

4.活動指標

Plan【計画】	平成25年度(現況)	3か年計画		
		平成26年度	平成27年度	平成28年度
事業内容 事業量等	JR東日本八王子支社との協議・合意書の取り交わし	JR東日本八王子支社との協議・年度協定締結 設計・拡幅等工事	JR東日本八王子支社との協議・年度協定締結 拡幅等工事	JR東日本八王子支社との協議・年度協定締結 拡幅等工事

5.投入指標(成果の達成、及び活動するために投入する資源【ヒト・モノ・カネ】)

①人件費【事務執行に要する人数と1人当たりの年間業務時間】

職層・職種別	平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度	
	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間
係長職	2人	720 H	2人	720 H	2人	720 H	2人	720 H
主事・主任職	0人	0 H	0人	0 H	0人	0 H	0人	0 H

②総事業費

事業費の内訳(単位:千円)	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
事業費	0	0	0	0
人件費(係長職)	7,337	7,215	7,215	7,215
人件費(主任・主事職)	0	0	0	0
総事業費(合計)	7,337	7,215	7,215	7,215
国庫支出金	0	(財源調整中)	(財源調整中)	(財源調整中)
都支出金	0	0	0	0
受益者負担額	0	0	0	0
その他特定財源	0	0	0	0
一般会計繰入金	0	0	0	0
起債	0	0	0	0
一般財源(人件費含む)	7,337	7,215	7,215	7,215
財源内訳(合計)	7,337	7,215	7,215	7,215

③コスト計算

ア 市民	56,732	人における1人あたりのコストは、	127	円
イ 対象者		人における1人あたりのコストは、		円
ウ 成果物		の 出来高		円

※対象者

Do【実行】 【進行管理】

6.実施結果(活動指標と投入指標の結果)

計画どおり完了 計画を見直し完了(次年度以降計画を見直す) 遅延 中断

①活動実績(Plan【計画】)及び事中評価における改善について本年度どのような活動を実施したか
 ※計画を見直し完了、遅延、中断となった場合は、理由、内容などを記入すること。

羽村駅自由通路の拡幅等について東日本旅客鉄道(株)と協議を進め、自由通路を道路施設として拡幅することで、駅利用者並びに東西地区間の通路利用者の利便性や安全性の向上を図る。

②投入実績

決算の内訳(単位:円)	予算額(当初)	補正・流用額	予算額(最終)	決算額	執行率
事業費	0	10,314,000	10,314,000	9,572,937	92.8%

7.成果結果

①活動、投入実績から生じた成果(物)

前年度(今までの状況)	今年度(どういう状態になったか)
本事業の設計・工事に着手するため、青梅線羽村駅自由通路等整備事業に関する基本協定を締結した。	青梅線羽村駅自由通路拡幅等整備事業に関する自由通路拡幅の設計協定及び青梅線羽村駅自由通路拡幅等整備事業に関する店舗支障移転の設計協定の締結により、実施設計が完了したが、施工協定締結に至らなかった。なお、基本協定の変更により、東口階段の位置変更に関する設計を市が実施した。

②成果指標(目標値)を数値化している場合

対象者(物)	本年度:目標値	本年度:実績値

Check【評価】

8.評価

◎…適切であるが、今後、より効果的に改善するもの

○…適切なもの

①事業評価(改善等、課題を発見する視点) △…課題があり、今後、改善が必要なもの

項目	評価のポイント	項目の着眼点	課長評価
妥当性(必要性)	・上位施策(基本目標・施策)を達成する為に必要な事業か ・今の社会情勢に見合う事業内容となっているか ・利用者・対象者のニーズ(需要)はあるか	施策体系に結びつくか、事業の必要性はあるか	○
効率性(手法)	・活動手法を見直し、人件費・事業費の削減余地はないか	成果を落とさず、最少の経費・労力で事務が執行されているか	○
有効性(成果)	・事業の目標が達成されているか	成果又は効果が表れているか	○

②事業評価(今後の方向性についての視点)

【今後の方向性】		今後の方向性
高 [妥当性・有効性]		A
↑	高	
低	← [効率性] →	
↓	低	

B:事業の進め方の改善の検討 A:計画どおりに事業を進めること、又は、より効果的に改善して進めることが適当

C:事業規模・内容又は実施主体の見直しの検討 D:事業の抜本的見直し、休止・廃止の検討

③事務事業から導かれる今後の方向性と課題

評価(所管課長)
青梅線羽村駅自由通路拡幅等整備事業に関する自由通路拡幅の設計協定及び青梅線羽村駅自由通路拡幅等整備事業に関する店舗支障移転の設計協定の締結により、実施設計は完了した。東口階段に関する設計を市が実施した。今後は、青梅線羽村駅自由通路拡幅等整備事業の事業費についてJRと協議を行い、施工協定を締結し、工事に着手して行く。

平成26年度【基本シート】

1.基本項目		作成部署	建設部			土木課
事業名		開始年度	実施期間	事業種別	運営手法	進行管理
6	奥多摩街道間坂交差点整備に伴う周辺道路(市道第203号線)の整備	平成 25 年	その他	自治事務	業務委託(全部)	
	01	年				
	02	年				
	03	年				
	04	年				
	05	年				
関連課						
基本目標	4	ひとと環境にやさしい安全で快適なまち	施策区分	29	道路	事業番号 7

2.事業の概要

事業内容	東京都が行う都道第29号線(奥多摩街道)間坂交差点改良工事に併せて、これに接続する付近の市道整備工事を行います。
根拠法令	
条例	
要綱等	

3.成果指標

成果目標	奥多摩街道交差点はカーブがきつく視界が悪いため、交通事故が多発している。また、歩行者が交差点を横断する際にも非常に危険な状態である。さらに、奥多摩街道(上下線)から接続する市道への右折車両による渋滞が発生している。このようなことから、都施工による奥多摩街道拡幅に併せ、市道第203号線の道路線形等を改良して交通安全の向上を図る必要がある。
------	---

4.活動指標

Plan【計画】	平成25年度(現況)	3か年計画		
		平成26年度	平成27年度	平成28年度
事業内容 事業量等	用地測量 物件補償調査	用地取得 物件補償	実施設計	工事

5.投入指標(成果の達成、及び活動するために投入する資源【ヒト・モノ・カネ】)

①人件費【事務執行に要する人数と1人当たりの年間業務時間】

職層・職種別	平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度	
	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間
係長職	1人	56H	1人	40H	1人	160H	0人	0H
主事・主任職	0人	0H	0人	0H	0人	0H	0人	0H

②総事業費

事業費の内訳(単位:千円)	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
事業費	1,134	0	0	0
人件費(係長職)	286	201	802	0
人件費(主任・主事職)	0	0	0	0
総事業費(合計)	1,420	201	802	0
国庫支出金	0	0	0	0
都支出金	0	0	0	0
受益者負担額	0	0	0	0
その他特定財源	0	0	0	0
一般会計繰入金	0	0	0	0
起債	0	0	0	0
一般財源(人件費含む)	1,420	201	802	0
財源内訳(合計)	1,420	201	802	0

③コスト計算

ア 市民	56,732	人における1人あたりのコストは、	4	円
イ 対象者		人における1人あたりのコストは、		円
ウ 成果物		の出来高		円
※対象者				円

Do【実行】 【進行管理】

6.実施結果(活動指標と投入指標の結果)

計画どおり完了 計画を見直し完了(次年度以降計画を見直す) 遅延 中断

①活動実績(Plan【計画】)及び事中評価における改善について本年度どのような活動を実施したか

※計画を見直し完了、遅延、中断となった場合は、理由、内容などを記入すること。

東京都と調整を図り、拡幅予定地の用地取得及び物件補償について交渉を重ねた。

②投入実績

決算の内訳(単位:円)	予算額(当初)	補正・流用額	予算額(最終)	決算額	執行率
事業費	0		0		-

7.成果結果

①活動、投入実績から生じた成果(物)

前年度(今までの状況)	今年度(どういう状態になったか)
拡幅用地取得のための用地測量及び物件補償調査を実施した。	交渉の結果、用地取得及び補償物件について、概ね承諾を得ることができたため、平成27年度において用地取得費、物件補償費、設計委託費、拡幅工事費について予算措置を行った。

②成果指標(目標値)を数値化している場合

対象者(物)	本年度:目標値	本年度:実績値

Check【評価】

8.評価

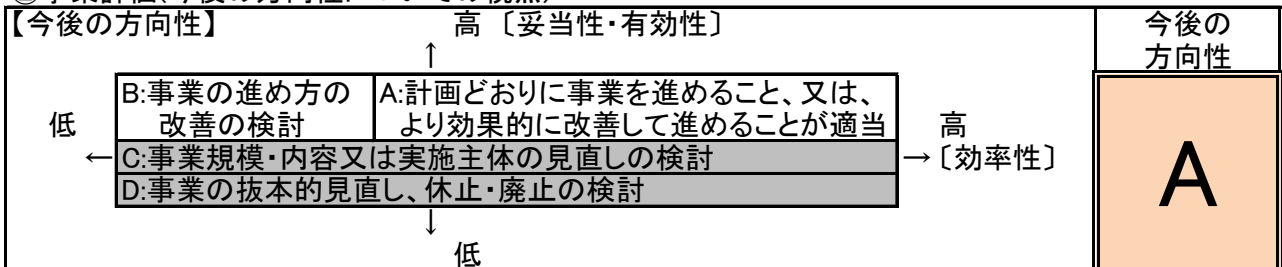
◎…適切であるが、今後、より効果的に改善するもの

○…適切なもの

①事業評価(改善等、課題を発見する視点) △…課題があり、今後、改善が必要なもの

項目	評価のポイント	項目の着眼点	課長評価
妥当性(必要性)	・上位施策(基本目標・施策)を達成する為に必要な事業か ・今の社会情勢に見合う事業内容となっているか ・利用者・対象者のニーズ(需要)はあるか	施策体系に結びつくか、事業の必要性はあるか	○
効率性(手法)	・活動手法を見直し、人件費・事業費の削減余地はないか	成果を落とさず、最少の経費・労力で事務が執行されているか	○
有効性(成果)	・事業の目標が達成されているか	成果又は効果が表れているか	○

②事業評価(今後の方向性についての視点)



③事務事業から導かれる今後の方向性と課題

評価(所管課長)

本事業を実施することにより、交通環境の改善や交通の利便性の向上が図れるため、早急に整備する必要がある。

また、西多摩建設事務所の施工による奥多摩街道拡幅に併せ、市道第203号線の道路線形等を改良することにより、一体的に交差点改良が実施できるため効率性が高い事業である。